

令和5年度 目的事業報告書

1. 事業名	落語と絵本のアニューアーレ～三題噺王決定戦～
2. 事業内容	上方落語協会所属の若手噺家10名が披露する新作三題噺から着想を得た「はなし画」により、絵本の夢を追いかけるコミュニティのイベント。1stラウンドは9/23大淀コミュニティセンターで開催、多世代約200名の聴衆が訪れ大いに盛り上がり決勝進出6名の落語家を選んだ。「はなし画」は審査員によるリモート審査を実施。全33名・99作品から10名・30作品を選定、それら優秀作品は「記念画集」に収めた。翌1/26には天満天神繁昌亭で「三題噺王決定戦」が開催され、三題噺王を決定し表彰するとともに、「はなし画」作者の表彰式も同時開催した。
3. 実施日 実施場所	○令和5年9月23日(土) 「落語と絵本のアニューアーレ～三題噺王 1stラウンド～」 (実施場所：大淀コミュニティセンター ホール) ○令和6年1月26日(金)「落語と絵本のアニューアーレ～三題噺王決定戦～」 (実施場所：天満天神繁盛亭)
4. 来場人数	延べ約300名
5. 出演・審査・協力など (敬称略)	□公益社団法人上方落語協会会長・笑福亭仁智 □露の団姫/桂そうば/桂ぽんぽ娘/笑福亭智六/笑福亭呂好/桂和歌ぼん/桂福点/月亭天使/桂菊輔/桂紋四郎/桂あおば/桂恩狸 □笑福亭仁智/大阪大学名誉教授・橋爪節也/演芸ジャーナリスト・やまだりよこ/大阪大学大学院 工学研究科准教授・福田知弘/SPACESPACE 建築家・岸上純子/株式会社偕成社販売部取締役特販部長・西川稔/関西テレビ放送株式会社・水戸徹/天満天神繁昌亭マネージャー・關英栄 □大道意匠研究舎/株式会社シンカ・コミュニケーションズ
6. 次年度の 展望	「はなし画」の応募者において、コミュニティからの参加を募る工夫をさらに重ね、コミュニティ・イベントとしての実績を高めていく。 なお、「原画展」ではホームページを活用した公開スタイルの方がよりイベントへの興味を深めるきっかけになり得るとの考え方もあるため、SNS や Web サイトを活用した展開など、方法や課題を総合的に検証し、次年度開催に向け検討を重ねていく。

添付資料① 当日写真

＜「落語と絵本のアニユアーレ～三題噺王1st ラウンド～」(9月23日@大淀コミュニティセンター)＞



＜「落語と絵本のアニユアーレ～三題噺王 決勝ラウンド～」(1月26日@天満天神繫昌亭)＞



＜「はなし画」表彰式（令和6年1月26日@天満天神繁盛亭）＞





落語と絵本のアニュアルレ

三題噺王 決定戦

1st ラウンド



【総合プロデューサー】上方落語協会会長 笑福亭仁智

2023 年

9月23日(土・祝)

13:00 ~ 16:00 頃 (12:30 開場)

会場：大淀コミュニティセンター

(大阪市北区本庄東 3-8-2)

観覧
無料

※以下に記載の方法にて
事前にお申込みください。

①WEBで観覧お申込み

下記の QR コード、または記載の URL より、
手順に沿ってお申込みください。



「三題噺王決定戦 1st ラウンド」
電子チケットお申込みページ
<https://teket.jp/4078/25191>

②往復はがきで観覧お申込み

氏名、ご住所をご記入の上、下記宛先までお送りく
ださい。はがき 1 枚につき 4 名まで受付可能です。

＜宛先＞〒541-0055
大阪市中央区船場中央 1-3-2-302
大阪市コミュニティ協会
9/23 落語会観覧希望 係

※9月2日締切・当日消印有効

※かならず同行者様会員の氏名を明記してください。
記載のない場合は、ご入場いただけませんのでご注意ください。
※往復はがきは9月9日に発送いたします。

主催：(一財) 大阪市コミュニティ協会 共催：(公社) 上方落語協会・天満天神繁昌亭

＜お問合せ＞info@sanmusei.net
※メールでのみ受付いたします。

2023年9月23日開催の「1st ラウンド」
 決勝進出者による**決勝戦**！
 はなし圖コンテスト表彰式も同時に開催！出演順は当日抽選にて決定します。



落語と絵本の**ア**ニユアーレ



三題新王 決定戦

決勝ラウンド

【総合プロデューサー】上方落語協会会長 笑福亭仁智

2024 年

1月26日(金)

18:00 ~ (17:30 開場)

会場：天満天神繁昌亭 (大阪市北区天神橋 2-1-34)

※未就学児童の入場はご遠慮ください。

●天満天神繁昌亭 (大阪市北区天神橋2-1-34)



●地下鉄谷町線/御堂筋線「南森町駅」④・⑧出口
 ●JR 東西線「大阪天満宮駅」の番出口
 各徒歩3分

前売 ¥2,500

当日 ¥3,000

【全席指定・税込】

【前売券のお求めは】

チケットぴあ Pコード 597-700

(セブンイレブン・t.pia.jp)

繁昌亭チケット窓口 (11:00-19:00 窓口販売のみ)

チケット・会場に関するお問合せ：天満天神繁昌亭 ☎06-6352-4874

主催：(公社) 上方落語協会・天満天神繁昌亭 共催：(一財) 大阪市コミュニティ協会

落語と絵本のアンニアーレ2023 三題噺王決定戦1stラウンド アンケート集計

Q1.あなたの年齢は		
1	20歳代未満	26
2	20歳代	2
3	30歳代	3
4	40歳代	11
5	50歳代	15
6	60歳代	18
7	70歳代	30
8	80歳代以上	3
合計		108



Q2.あなたのお住まいは		
1	北区	24
2	住之江	2
3	東淀川	3
4	都島	1
5	阿倍野	3
6	淀川	4
7	鶴見	1
8	東成	3
9	西淀川	1
10	福島	1
11	西	1
12	東住吉	1
13	生野	1
14	中央	1
15	浪速	1
16	西成	1
17	此花	1
18	大正	1
大阪市内		27
19	大阪市外	57
合計		108

Q2.あなたのお住まいは



Q3.本事業をご覧になったご感想は		
1	たいへんよかった	47
2	まあまあよかった	51
3	あまりよくなかった	0
4	よくなかった	1
5	その他	9
合計		108



Q4.本事業を何でお知りになりましたか		
1	チラシ	37
2	コミュニティ協会のホームページ	3
3	知り合い	27
4	新聞等の記事	3
5	その他	38
合計		108

Q4.本事業を何でお知りになりましたか



Q5.三題噺王決定戦に参加したいですか		
1	参加したい	28
2	都合が合えば	38
3	参加しない	14
4	わからない	26
合計		106
未記入		2

Q6.はなし画に応募したいと思いますか		
1	応募したい	28
2	応募したくない	21
3	わからない	57
合計		106
未記入		2

Q5.三題噺王決定戦に参加したいですか



Q6.はなし画に応募したいですか



<年代別クロスマッチ集計>

※20歳代未満～20歳代(対象数：28名)

感想	
たいへんよかった	15
まあまあよかった	11
あまりよくなかった	0
よくなかった	1
その他	1
計28件	

住まい	(区外内訳)
北区	3 淀川区 2名
大阪市内	7 鶴見区 1名
大阪市外	18 西淀川区 1名
	福島区 1名
	西区 1名
	浪速区 1名
計28件	

何で知った	(自由回答)
チラシ	6
コミ協HP	0
知り合い	2
新聞等の記事	0
その他	20 学校の授業20名
計28件	

その他ご感想
はじめて落語を見ましたがおもしろかったです。
落語を聞いたのは初めてだったのですが、とてもおもしろかったです。
落語を生で聞くのははじめてでしたがすごくおもしろかったです

決定戦に参加したいか	
参加したい	1
都合が合えば	6
参加しない	7
わからない	13
未回答	1
計28件	

はなし画に応募したいと思ったか	
応募したい	18
応募したくない	0
わからない	9
未回答	1
計28件	

※30歳代～50歳代(対象数：29名)

感想	
たいへんよかった	13
まあまあよかった	15
あまりよくなかった	0
よくなかった	0
その他	1
計28件	

住まい	(区外内訳)
北区	7 中央 住之江
大阪市内	9 生野 東住吉
大阪市外	13 都島 東淀川
	西成
	淀川
	大正
計28件	

何で知った	(自由回答)
チラシ	9 団地のブログ
コミ協HP	0 家族
知り合い	11 去年も観て
新聞等の記事	0 担当の方から
その他	9 よせび
計28件	

その他ご感想
楽しかったです
未就学児は入場不可とのことでしたが、赤ちゃんはOKなのでしょうか？
面白い噺はきいてたのしいけど、つまらないのは客からしたら地獄です
噺のネタをみなさんよく考えてねられていたのをしみじみと感じました。これからもがんばって下さい
おしりがいたい。大きい声で笑いをとるのはどうかとおもう。話上手はやっぱおもしろい。
1名のみの授業でしたが3名がとてもよかったですありがとうございました。
落語をたくさん聴いたのが初めてだったが楽しかった。長時間は少し疲れました。

決定戦に参加したいか	
参加したい	7
都合が合えば	15
参加しない	2
わからない	5
未回答	0
計28件	

はなし画に応募したいと思ったか	
応募したい	4
応募したくない	8
わからない	17
未回答	0
計28件	

※60歳代～80歳代以上(対象数：51名)

感想	
たいへんよかった	19
まあまあよかった	25
あまりよくなかった	0
よくなかった	0
その他	7
計28件	

住まい		(区外内訳)
北区	14	阿倍野3名
大阪市内	11	住之江1名
大阪市外	26	東淀川2名
		東成3名
		淀川1名
		此花1名
計28件		

何で知った		(自由回答)
チラシ	22	たびばる5名
コミ協HP	3	tiket
知り合い	14	お友達から
新聞等の記事	3	ツアー
その他	9	
計28件		

その他ご感想
楽しい企画でした
長いので（出演者が多いので）出演者10人、決勝5人かどうか
三題噺でできた落語を寄席でも聞かせてほしいです！
ふだんの噺家さんをちがった面が拝見できて楽しいです
決勝進出者の選考をスピードアップしてください
落語で昔の生活や文化が勉強できるのはうれしい
色々な落語噺を聞けました
聴き比べが出来、楽しかった

決定戦に参加したいか	
参加したい	20
都合が合えば	17
参加しない	5
わからない	8
未回答	1
計28件	

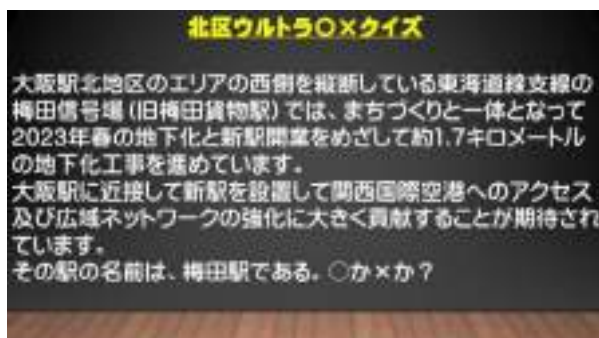
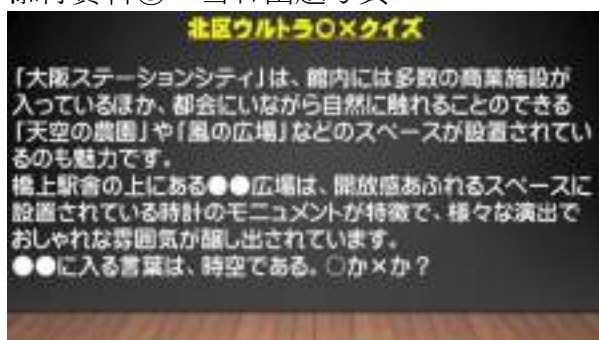
はなし画に応募したいと思ったか	
応募したい	6
応募したくない	13
わからない	31
未回答	1
計28件	

添付資料④ 「落語と絵本のアニユアーレ」（9月23日）アンケートご意見欄

- はじめて落語を聞きました。とてもおもしろかったです。
- はじめて、落語を生で見れておもしろかったです。
- 新たなもよおしで良かったです。落語のテレビ放送少ないのもっと番組してほしいです。
- 会場の案内者や係員が少なかった。空調が寒すぎたり、後半暑かったりで残念。席の配置が見にくく残念
- 落語ってどんなのか知らなかったけどおもしろかった。お年寄りの人向けのイメージだったけど10代の私でも友だちと一緒に楽しめました。
- また、こういう落語会があれば機会があれば来たいです。
- 落語をちゃんと見たのは初めてだったけど、意外におもしろくて興味がわきました。
- 絵本のアニユアーレという割には噺を絵にしにくい話が多かった。その点だけが残念でした。
- 落語を生で見るのはなかなかないのでよかった。「落語」が子供の小学校の教科書にもものっているののでわかりやすいものもいいですね。
- 思ってたのと違い、三題噺を取り込んだ新作落語になっていてたいへんよかった。頭に浮かんだ情景が絵本になるのが楽しみです。
- よかったのでこれからも続けてほしいと思います。
- チラシを見てこのイベントを知りました。異なるジャンルの方々のコラボ大変楽しいので今後も続けていただけたらと思います。
- 上は空間があるけど下は密。出入り禁止テープを貼るなどしてドアはあるていど開放したほうが良い。入場時から静かに会話を控えるようなアナウンスすべき。

1. 事業名	謎解きゲーム&北区ウルトラ〇×クイズ
2. 事業内容	約3年の新型コロナ感染拡大による「友だち」、「住民」、「地域」とのコミュニティ不足を解消しコミュニティの賦活化を図ると共に、地域活性化・施設利用の増加促進を目的として開催した。北区の小学3年生～小学6年生を対象に2名1組で参加者を募り、「北区にまつわる〇×クイズ」では、ペアが一丸となって北区にまつわるクイズに解答してもらい、「謎解きゲーム」では中級・上級・超上級の謎解き問題を解き明かし、2つの総合点を競う内容で実施した。 〇×クイズについては地域のまち歩き等の活動を行っている「北区ガイドボランティア ヤジ馬ヤジ北」代表・松田眞一氏に問題の監修・当日の解説を依頼した。
3. 実施日 実施場所	令和5年12月26日(火) 午後1時30分～午後4時 北区民センター・ホール
4. 来場人数	延べ 6組12名
5. 協力	・謎解き問題：(株)SCRAP「ヒラメキナゾトキ BOOK」より ・北区ウルトラ〇×クイズ解説：ヤジ馬ヤジ北 代表・松田眞一様 ・北区子ども会育成連合協議会
6. 次年度の展望	参加者目標30組に対し、応募は10組だったが、当日、コロナ感染や病気によるキャンセルがあり、最終的には6組の参加となった。北区民センターが校区内にある小学校へのチラシ通送を実施。Facebook/Twitter/ピアッザ/ジモティなどのSNSやネット媒体での告知と併せ、北区民センター東壁の大型サイネージでの告知も実施した。 次年度は区内各小学校へチラシを通送し、各校下においても掲示板への掲示・チラシの配架を行い、より広範に告知を行えるよう検討している。また、アンケート結果で内容が難しかったという声が多く見られたため、次年度は幅広い年代の子どもたちが気軽に参加でき、自分たちの住む地域のことを始め、様々なことを楽しく学ぶことができるような内容を検討する。

添付資料⑤ 当日出題写真



謎解きゲーム & 北区ウルトラ○×クイズ!!

2023年12月26日(水)

午後1時～午後4時

参加
無料



謎解きゲーム

チームで協力して
謎を解き明かそう!



北区ウルトラ○×クイズ

北区に関するクイズを
何問正解できるかな?



2種類の問題に
挑戦だ!!

場 所 北区民センター2F ホール

参加条件 小学3年生～小学6年生 2人1組

応募定員 30組 (応募多数の場合は抽選で決定します。予めご了承ください)

応募方法

- ・お子様のみで参加する場合は、必ず保護者の同意書が必要です。
 - ・右のQRコードから応募フォームにアクセスしご応募下さい。
 - ・電話、FAX、来館でも受付いたします。
- (FAXの場合は、住所、氏名、年齢、保護者の連絡先を記載して下さい。)

参加者全員に
プレゼントもあるよ!

応募締切は
12/24(日)
午後5時まで



お申し込み

主催：(一財)大阪市コミュニティ協会北区支部協議会 協力：北区子ども会育成連合協議会
お問い合わせ先：北区民センター（大阪市北区扇町2-1-27）電話：06-6315-1500 FAX:06-6367-1990

1. 事業名	キタのまちのニューズレター<北区ふるさと・地域間交流>
2. 事業内容	商業施設の更新やホテル増などによる、まちの様変わり「まちの記憶」に着眼し、特にマンション居住者が9割を超える北区の現状や今後増加する都心居住者らに「新しいコミュニティ」へのヒントになり得るような「たのしみ」や「行動をともにする地区生活者の話」などを中心に構成したニューズレターを発行した。各号では地域コミュニティに関する様々な分野の専門家に執筆を依頼し、北区の魅力を多面的に発信した。また、北区内ばかりではなく、北区に立地する道県事務所など広域交流が可能な取材先も取り込んだ。 さらに、新たにコミュニティに参入したいと考えている方が地域の情報を得られるように多くの方に届けるキタの情報を発信した。
3. 発行	No. 8 : 2023 (令和5) 年春・夏号 No. 9 : 2023 (令和5) 年夏・秋号 No. 10 : 2023 (令和5) 年秋・冬号 No. 11 : 2024 (令和6) 年冬・春号
4. 発行部数	各 16,000 部
5. 編集・発行	北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室
6. 次年度の展望	北区民センターや大淀コミュニティセンターの利用者に対してのインタビューを行う。実際の利用者の声を届け、身近な場所の活動の内容を知ってもらう。 それに加えて、北区民センターや大淀コミュニティセンターの事業などの情報を発信・周知するとともに、地域コミュニティに関する様々な分野の方やご利用頂いた地域団体に出稿協力を依頼し、北区に寄り添い北区の魅力を発信し続ける。 そして、地域住民の皆様は北区民センターや大淀コミュニティセンターが「気軽に」・「いつでも」・「誰とでも」・「地域コミュニティの場」として利用頂けるような利用促進を図る。

KITA NO MACHI NO NEWS LETTER

No.8 2023
春・夏号

キタのまちのニュースレター



「ローズミュージックフェスティバル」お茶席 大阪府立桜和高等学校 茶道部 インタビュー

恒例、ローズミュージックフェスティバル（以下、ローズ）は桜和高等学校、金蘭会高等学校・中学校によるコラボ演奏会で、当日は桜和高校茶道部の「お茶席」も恒例です。同校は大川がカーブする高上に位置し、付近の旧・淀川（大川）には秀吉のお茶会と縁深い青苔があります。今回、歴史と現代が交差するその茶道部に顧問の小島先生、表千家茶道教授・河西先生、部長・高島さん、男性部員・山條さんを訪ねました。（ローズは12月開催予定/詳報次号）

——まずはじめにお二人が茶道を始めたきっかけは？

高島さん 「お抹茶が好きだったのと、小さい頃からお花や着物といった和の文化が好きだったので興味があったんです。なので中学から茶道部に入っています」

山條さん 「僕は中学の頃はサッカー部に入っていました。でも実は運動があんまり得意じゃなくて…。高校では別の部活に入ろうと思っていた時に、学校の説明会で茶道部を知って、面白そうだと思い入部しました」

——そんなお二人は昨年のローズが、初めて学外の人にお点前を披露した時だったそうですが、どんな感想を言われましたか。

高島さん 「すごく緊張したし、美味しくできるか不安もありました。でも、最後にお客様から“上手だったよ”って声をかけてもらえて自信ができました」

山條さん 「自分のときは親が来てくれたんです。帰って感想を聞いたら“美味しかった”って言ってくれて、お茶に詳しくない人にも美味しさを伝えられたと思うと嬉しかったです」

河西先生 「みんなお点前が上手だから、お抹茶も美味しいですよ。それにただ点てるだけでなく、相手を思って点てているんだと思います。二人ともホッとするお茶を点てるんですよ」

小島先生 「普段は文化祭が初めて披露する場なんですけど、コロナでそれもなくなくなっていました。ローズの時に人前で披露するという目標ができて、前向きに取り組めたので、みんな半年ほどですごく成長しました」

お茶席で飾られている花や掛け軸、茶器にいたるまで、

すべてが相手に楽しんでもらうための気遣いが込められていると言えます。茶道を学んでいく中で、自然と思いやる心が育まれ、お点前にも表れているのかもしれません。

——それでは最後に今年のローズに対する意気込みをお願いします！

高島さん 「いろいろなお話をしたいです。そして、お茶席をきっかけに茶道に興味を持ってもらえたらいいなと思います」

山條さん 「小さい子からご年配の方まで楽しんでいただいで、『これ高校生がやったの！』と驚いてもらえるよう頑張ります（笑）」

小島先生 「みんな心を込めてお茶を点てさせていただくので、ぜひいっぶく召し上がっていただきたいです」

河西先生 「この子たちがお客様を思いやる姿を見て、お茶をいただいた時に“心が美味しいな”というのを感じていただきたいです」

今年からは後輩も入ってきて、ますます成長していくであろうお二人。今年のローズではどんなお点前を披露してくださるのか、ローズの際は来館して、ぜひ堪能してみてください。



■バックナンバーの確認「キタのまちのニュースレター ちょっとだけプラス」にアクセス！

大淀&北区民センター便り

未来の私をつくるのは、いま。
ヨガでエイジングビューティ！

ヨガ講習会 講師 北野 富佐子

日本体育大学の「集団行動」という団体スポーツをご存知でしょうか？ 何十人という男女混合の学生たちが、整列を乱さず行進やかけ足、斜めに交差したり、後ろに連なり…縦横無尽に形を変える究極の行進パフォーマンスです。息の合った一糸乱れぬ動き。シンプルがゆえに、皆の魂が呼応し昇華されていく高難度な演技は、観る者を圧倒し、国内外で高く評価されています。一体、どれほどの鍛錬を積み重ねてきたのでしょうか。

「息が合う」ことで生まれる。

穏やかな安定感と波のようなパワー。

コロナ禍のマスク生活は、仲間と息を合わせて楽しむ毎日。そして、自分自身と息が合う暮らしを奪ってしまいました。「やる気はあるけど、あちこち痛くて」「体調は万全なのに、気持ちが前を向かない」心と身体の不協和音を感じてはいませんか？

「息」は、自分の心と書きます。心のありようを表す呼吸を、ゆったり穏やかに。ヨガは様々なポーズを通して、身体の歪みや左右差に気づき、少しずつ改善していきます。筋肉が柔軟に、骨格が正常に整ってくると、肩や腰の不調が和らぎ、血行が良くなり、情緒も安定。さらに呼吸も深まっていく好循環が生まれます。ヨガで培った心身の安定は、お隣さんへ、ご家族へ、職場へ、地域へ…優しい空気となって波及していくでしょう。呼吸が心と身体を繋いでいくことで、充実した毎日を送ることを目標にしています。

くらべない・がんばらない・あきらめないをモットーに、解剖学に基づいた正しい骨格の動かし方、筋肉の柔軟性と強さのバランス、四季に呼応した身体のケア法…さまざまな視点から、クラスを構成しています。

まずは、マットに座る。呼吸の波に合わせて手足を伸ばしてみる。全身にみずみずしい酸素が巡り、こわばっていた身体と心が開いてくるのを感じるでしょう。ポーズの完成度は二の次、三の次(笑)。50人いたら、50のポーズと笑顔が並びます。いまの私は、過去の結果。未来の私は、いまの結果です。5年後、10年後「息の合った私」でいるために、いまを大切に。ヨガで楽しくエイジングビューティ、始めましょう。



ツキイチ屋台から

大阪人のコミュニケーション

建築家・ツキイチ屋台女将 岸上 純子

前回、地域コミュニティはちょっと面倒だけど、防災の観点においても大切ですよという話をしました。そうはいってもコミュニティって難しそう…と思う人も多いのでは？

かくいう私も「京都だったら難しかったかな」って話を京都精華大学学長のウスビ・サコ先生から聞きました。例えばあなたが家でパーティー。するとご近所の方が「にぎやかでよろしいね」「あなたが来てから、このあたりがにぎやかになりました」と声をかけしてくれました。あなたなら、こう言われたらどう思いますか？

私だったら「はい、にぎやかに楽しくさせてもらってます！」って返事してしまうでしょう。大阪ならOK。でも、京都では「にぎやかでよろしいね＝うるさくて迷惑です」なんだそうです。

他にも、京都人の遠回しな表現の難しさをおもしろおかしく書かれた、サコ先生の著書『ウスビ・サコのまだ空気読めません』『アフリカ学長、京都修行中』なんかを読んでみてください。京都人のおだやかな口調に込められたNGサイン、暗黙のルールの難しさを感じますし、それを知らないと大変なことになるんだと実感できます。

もう一つ、サコ先生に聞いて驚いたことがありました。私は大阪人ですが、親からは「家の前の掃き掃除をする時は向こう3軒くらいまでしなさい」と教えられました。けれど、京都ではそれがNGなんだそうです。お隣の前も掃くと「あなたの家は汚いですね」というサインになってしまうからだそうです…ああ難し。

世の中にはその土地土地のルールがあります。それは世界も同じです。先日、吹田の「民博」に行った時、エチオピアの食とコミュニケーションの展示を見つけました。食事をする場に出くわすと「インネブラ！＝さぁ一緒に食べよう！」の意と誘われるそうですが、声をかけられてもこの誘いに乗ってはいけません。なんらかの建前を述べ、断るのが美徳なんだそうです。ちょっと京都と似てますね。こういった遠回しのコミュニケーションルールは本当に難しいなと感じます。

でも、大阪はハッキリが持ち味です。時々キツく感じることもあるかもしれませんが、本音でわかりやすい。怒られたら誠意を込め謝ればいいし、褒められたら素直に喜んでいいのです。大阪人でよかった！



キタ歩き日本旅



福岡県
の巻

「大阪駅前ビル」には、47都道府県のうち約半数にもなる日本全国の「道府県事務所」がオフィスを構えています。少し大げさに表現すると『日本が大阪駅前ビルに動ぜろい!』の風情です。SNS万歳の時代ですが、全国各地の旅や物産の様子が「人肌感覚」で知ることができます。この連載は、旅する感覚で北区の大阪駅前ビルを訪ね教えていただいた情報です。大阪駅前ビルの歴史も魅力的!「わが町の旅」としていかがでしょうか。



ブランド・イカ「一本槍」写真提供:福岡県大阪事務所



中之島南端「剣先」(中之島をゆみらいに開き、江戸より船着:大阪市立図書館蔵)

九州・沖縄各県を巡ってきましたが今日は福岡県大阪事務所にて田中さんを訪ねました。そこで開口一番。こんなお話が……

NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」は2014年に放映されました。福岡の町を築いたと称される黒田官兵衛が所有していた槍に「日本号」という天下の名槍があります。この名槍・日本号にあやかり、福岡・筑前高嶺が釣り上げた高品質のヤリイカ・ケンサキイカを「一本槍」と名付けブランド化しています。「酒は〜飲め〜飲め〜」で有名な黒田節の「この槍」とは日本号のことです。

豊臣家臣、天才軍師・官兵衛と猛将・福島正則が「飲み比べ」た「あの槍」ですか?

そうです! 天下の名槍・日本号はこの逸話にちなみ「呑み取りの槍」とも呼び、福岡市博物館に常時展示しています。イカの「一本槍」は夏のケンサキ、秋から冬にかけてはヤリの旬。ただし「この透明感・この食感」はとれたてすぐの「活け」

だけのもので、福岡までお越しただけだと体験することができません。

「イカは白い」と思っていたが、こんなに透き通っているんですね。

そうなんです。「一本槍」は素晴らしいイカです。そのいわれの「日本号」には、より深い「大阪つながり」があるような気がします。

じつは、大阪の象徴的な場所、北区中之島。その東端がまさに「ケンサキ」なんです。すぐさま「中之島・剣先」を思い浮かべました。

それは面白いですね〜〜! 中之島に「剣先」があるとは知りませんでした。

後日、調べてみると……大阪歴史博物館研究紀要 第13号 文献資料からみた豊臣前期大阪城の武家屋敷・武家地(大澤研一氏による)3ページ(表1 先行研究にみる武家屋敷の所在地)に、次の記述があります。黒田考高・長政/場所・天満/出典2・標井1970/備考・二町南に近世の東照宮(抜粋)……ここで

は、櫻井成廣という方の「豊臣秀吉の居城 大阪城編」の研究から「明らかにした」と記されています。孝高は官兵衛、長政は嫡男。ここの「天満」は造幣局北側で、「二町南に近世の東照宮」は造幣局西隣り「大阪市立滝川小学校」付近です。

えっ、大阪に「黒田の屋敷」があったんですか。それはまったく知りませんでした。「日本号」や「一本槍」も、やはり遠からぬご縁があったんですね!……私も訪ねてみます。大阪の街には、ぜひ現地で「日本号」「一本槍」を体験してみてください。

(次号から「北から南へ」県事務所を訪ねます)



天下の名槍「日本号」

写真提供:福岡県大阪事務所

浪花百景歳時記

大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員

波瀬山祥子

桜はどこじや、どこじや

第四六景 堀川備前卿家 芳雪画

上方落語「へっつい盗人」は友人の新居祝いに、道具屋から「へっつい」かまど」を盗む話です。「見付かったらえらい目に遭わんらん」と所込みする清八に、「そうなたら、うっとこのおっさんの別荘に行ったらええ」と喜六は答えます。別荘とは豪勢な天満堀川にあったのですが、最近、界に引越

して壁が高いレンガ造りの立派な洋館になったそうでは……。お気づきでしょうか、おっさんの別荘とは監獄のことです。

現在堀川公園となっている場所に監獄が置かれたのは、明治十五年（一八八二）のこと。市の発展に伴って、街の中に広大な監獄があるのはふさわしくないという声が高まり大正九年（一九二〇）堺市へ移り、元の土地は大阪市へ払い下げられました。

本図はそれより遡って幕末の天満堀川沿いの



春景。天満堀川（現・北区堀町）は、戦国時代に堂島川から北へ向かって堀川公園付近まで開削され、天保九年（一八三八）に北東方向に延長されて大川につながりました。現在、川の跡は地下を通過して堀町まで抜けるバイパス。その上が阪神高津の守口線となっています。

文久元年（一八六一）、外国からの通商・開港要請を背景に、大阪湾周辺の警備を命じられた岡山藩が、堀川公園の場所に駐屯地を構えました。絵の奥に見える立派な高灯籠が目立ちます。

しかし、画面には幕末の危機迫る緊張感はなく、桜が咲き誇るのどかな春の陽気に包まれています。右下に流れるのが天満堀川で、土手沿いには満開の桜の木が並び、人々が花見を楽しんでいるようです。笠を被り尺八を吹く人物もいます。土手の突き当たりを右に折れ、さらに川をさかのぼると橋の口から桜花燦爛と咲き誇る桜宮の対岸に出ます。馬に乗る武士も陣屋に向かっていくのか、それともお花見でしょうか。

左側に木の幹を置き、枝を画面の上部から降ろす構図は、「浪花百景」の第八〇景「御勝山」にもみられる芳雪の得意技ですが、全体の構図を、歌川広重の「富士三十六景」の「武蔵小金井」から転用しています。桜並木の中にある由緒ありげな雲間が漂う大きな穴の空いた古木も、そっくりに広重画を写したものです。ですが、芳雪は巨匠の絵をうまく自分の画風に取り込んで、広重画の富士山を高灯籠へ置き換えて、新たな一図を生み出しました。

編集後記

筆者が取材に行った際、茶道部員のお二人はお茶を点てている最中でした。その姿を見て、「丁寧におもてなししよう」という意気込みが、所作から伝わってきたのが印象的でした。ありがたいことにお茶を立てていただけたことになり、一口いただく抹茶の苦味の中にまろやかな甘さがあり、どこかホッとする気持ちに。美味しいお茶を心地よくいただいた時、心の底から湧き上がる満足感……「これが“心が美味しい”瞬間か！」と実感した次第です。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・
都市コミュニティ研究室
■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会
■発行：月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行
北区民センター 〒530-8401 大阪市北区堀町2-1-27
☎ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp
大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
☎ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp

キタのまちのニュースレター

大淀から始まる
新たな音楽祭!



2000年から始まった「天満音楽祭」。北区民センターをはじめ、北区内のさまざまな場所で、多彩なジャンルのステージが楽しめることでおなじみです。
そんな「天満音楽祭」が協力する新イベントが、大淀コミュニティセンターで開催決定!!
「天満音楽祭」の敷ある歴史の中でも大淀コミュニティセンターのステージは初!
一体どんな催しになるのか…今回はその内容を運営担当の方にご紹介いただきます。

こんにちは!「DISCOVERY MUSIC」運営担当です!

この度、20~30代の若手メンバーを中心に『音楽のちからで大阪北区域を活性化させたい』というテーマの元、若年層を中心に人気のアーティストを迎え「DISCOVERY MUSIC」という音楽フェスを開催することが決定致しました。この音楽フェスは「天満音楽祭」協力の元、天満音楽祭のファン層とはまた違った若い人たちが音楽を通じて地域をさらに盛り上げていくことを目指しています。

今回初開催となりますが、TikTok フォロワー 50万人を抱えるKAY-I氏(from ROYALcomfort)や著名なアーティストをはじめ、新進気鋭のプロミュージシャンの参加が決定しています。

私たちは地域の方たちに、クオリティーの高い音楽に接することができる機会を提供し、日々の生活に彩りをもたらしたいと考えています。今回はたくさんの方のご協力があり、「大淀コミュニティセンター」にて開催致します。是非地域の方にもご参加頂き、盛り上がるイベントにしていきたいです。



DISCOVERY MUSIC

日時: 2023年8月26日(土)

[1部] OPEN 11:30 / START 11:50

[2部] OPEN 16:30 / START 16:50

会場: 大淀コミュニティセンター

〒531-0074 大阪府大阪市北区中津東3丁目8-2

料金: [1部] 前売 3,000円 / 当日 3,500円 (ドリンク代別)

[2部] 前売 4,000円 / 当日 4,500円 (ドリンク代別)

予約: https://l.livepocket.jp/e/discovery_music_0826

出演: 沖田彩華 (MC)

[1部] Fancy- / HIGH SPY DOLL / Quality / Reive / LOVISH /

Fortuness / da-gashi / KUKKA / イロハサクラ / Vress

[2部] 幻影コートピア / Tox=L / YUKI /

Place Order / SAWAGE

ゲスト: KAY-I (ROYALcomfort)

協力: 天満音楽祭実行委員会

共催: 一般財団法人 大阪市コミュニティ協会 北区支部協議会

制作: 株式会社ファースト / 合同会社梓忍

お問い合わせ: 合同会社梓忍 (info@osu-8a.com)

※入場は整理番号順です

※出演者のキャンセルに伴う返金は致しかねます

※チケット購入間違いによる返金・自己都合による返金は致しかねます

※OPEN / START 時間は変更になる可能性があります

■バックナンバーの確認 → 「キタのまちのニュースレター ちょっとだけプラス」にアクセス!

大淀 & 北区民センター便り

新コーナー予告！

みなさまの声を募集します

新コーナーのお知らせです。次号よりみなさまの声を「北区小話」として掲載したいと考えております。

実は、本誌は発行から2年が経ちます。その間イベント情報をはじめ、地域活性に励む方々のエッセイ、都道府県事務所を巡る「キタ歩き日本旅」、過去から大阪の街を紐解く「浪花百景歳時記」など、多方面から北区の魅力を発信し発信してきました。しかし、もっと身近なニュースを届けたいという思いがあり、それが「北区小話」という形になりました。

そのきっかけとなったのは世間話です。地域の人と世間話をする「新しいお店が近くにできた」「きれいな花が咲いている」など、自分では気づかない地域の情報が流れてきます。逆に、自分しか気づいていないこともあるものです。世間話の中には、「その人だけの地域の話題」で満ちていました。そこでニュースレターにも、個人的な地域のニュースを掲載することで、新たな視点や気づき、話題のきっかけづくりにしていただけるのではないかと考えています。

「北区で暮らしていて気付いたこと」「北区の思い出の場所」などなど、ぜひ北区在住・在勤の皆さんから、いろいろなお声をお寄せください。北区民センターや大淀コミュニティセンターに投稿箱を設置するほか、WEBからのご投稿も受付予定です。みなさまのご投稿をお待ちしております。

〔必須事項〕

題名/本文(140～230字)/お名前/ペンネーム/
郵便番号/住所/都道府県/連絡先電話番号/
メールアドレス/年齢/性別/職業

〔注意事項〕

- ・他媒体との二重投稿、ブログやフェイスブック、ツイッターなどネット上で公開したものの投稿はご遠慮ください。
- ・原稿はお返ししません。採否の問い合わせもご遠慮ください。
- ・デジタルメディアにも収録します。

掲載分の著作権は大阪市コミュニティ協会に帰属します。ただし、投稿者本人の利用は妨げません。

防災ロゲイニングという試み

防災感覚をもっと身近に

(一財)大阪市コミュニティ協会 都市コミュニティ研究室
多田・堀・李

なじみのない言葉ですが「防災ロゲイニング」って聞いたことありますか？

ロゲイニングは、もともと地図を手元に各チェックポイントを巡る「ゲーム感覚の遊び」のことです。そこに「防災」が冠されているということは…そうなんです。防災をキーワードにしたゲーム感覚の「まち歩き体験型」の新しい試みです。

「時間がない」「他に予定があるから」と「防災」を後回しにされている方も多いと思います。事実、大阪の防災訓練・参加率は全国的に見て高くありません。そこに新しい風を吹き込めるかもしれない。それが「防災ロゲイニング」への期待です。

防災訓練への参加率はシニア層が多く20～30代が少ないという傾向があるようです。しかし、災害は世代に関係なく多世代を巻き込みます。日中夜間を問わず外出機会の多い若い層、そして多世代にこそ、ロゲイニングによる「防災」手法が有効かもしれません。

近年、都市部での開催が増えている防災ロゲイニングでは、チェックポイントの「避難場所」に併せ、観光名所なんかも組み込みます。大川沿いや中之島エリアでは、防災に光を当てた(表現は適切でないのかもしれませんが)観光プログラムになるかもしれません。

弊社では今年5月、ある大学とコラボして「防災ロゲイニング体験」を企画し実施しました。当日は防災活動実習の大学生、地域の防災リーダーらも参加し、地域の皆さんとコラボして、防災ロゲイニングを「楽しむ」実証を行いました。

あえて「楽しむ」と表現したのは、防災が「苦役」ではなく、前向きに「楽しみ」、多くの人とひとつながって「共有すべきもの」であってほしいと願っているからです。実施当日の反省点は、チェックポイントにしていた津波避難ビルのピクトグラム(デザインされた表示物)がわからず、違うピクトグラムをチェックポイントと勘違いしてしまいゲーム(得点)にならない例があった事。ただしそのことで、「避難場所を誤れば命を失う」という好例になり、「防災・避難」について考えるいい機会になりました。

避難場所の熟知だけでなく、災害遺構や災害記念碑のチェックポイントも、防災の学びにとっても役立ちました。「知っていた」はずのことが、「そうでもなかった」と、地区に暮らす皆さんから、思わず声が上がりました。それは、「自身の校区」から出ればなおのことでした。

北区には世界最大といわれる地下街もあります。だからこそ、常日頃から防災ロゲイニング的な感覚を磨き上げ、身を守る意識を高めておくのは必須です。皆さんはどのようにお考えですか？



キタ歩き日本旅



北海道
の巻

「大阪駅前ビル」には、47都道府県のうち約半数にもなる日本全国の「道府県事務所」がオフィスを構えています。少し大げさに表現すると『日本が大阪駅前ビルに勢ぞろい!』の風情です。SNS万端の時代ですが、全国各地の旗や物産の様子を「人肌感覚」で知ることができます。この連載は、旅する感覚で北区の大阪駅前ビルを訪ね教えていただいた情報です。大阪駅前ビルの歴史も魅力的!「わが町の旗」としていかがでしょうか。



雄大な大雪山を背景に広がる幻想的なタウシュベツ橋



近づいて見る「タウシュベツ橋」の「手触り感」

前号までに沖縄・九州のすべてを巡りました。今度は逆に、北から日本列島を南下することにします。もちろん最初は「デッサイダー」の北海道大阪事務所。観光担当の金平治さんに「大好きな北海道の風景」をお尋ねしてみました。

北海道の風景はどこをとっても雄大で甲乙つけがたいのですが、「日本の歴史・雄大さ・ほのぼの感」の三拍子がそろった、上士幌町の「タウシュベツ橋」はおススメのひとつです。この橋梁は、1937年に作られた旧国鉄士幌線のアーチ橋です。その後、ダム建設により1955年からは放棄されてきました。発電目的のダム湖の水位変動により水没して見えなくなる時期があり「幻の橋」とも呼ばれています。

えっ!こんなに幻想的なんですね!(ビックリ!!)

水没期にも一部は見えますが、是非とも満水期に訪ね全容を見てほしいと思います。詳細、NPO法人ひがし大雪自然ガイドセンター(メール:shizen@guidecentre.jp 電話01564-4-2261)にアクセスしてみてください。有料ガイドツアー

も実施されています。

こんなに雄大なものではありませんが、大田市北区にも同様の「ものごと」を持つ橋があります。市役所北側の堂島川に架かる水晶橋です。1929年、堂島可動堰(小さなダム)として完成したこの橋は、とても凝ったデザインの可動堰でした。2002年、可動堰部分は撤去されましたが一部に可動堰としての名残も確認できます。

大阪のど真ん中にも、そんなところがあるんですね。でも、このすごいところは「朽ちてなくなるかもしれないコンクリート橋をぜひ見に来てほしい!」と、NPO法人を立ち上げ、自力でガイドツアーし、さらには「模型で造ろう!」の潮底橋梁タウシュベツ橋というクラウドファンディングを成功させ、それらを着々と具体へと導いていることです。

そのような試みのすべては、雄大な大雪山の森林を切り出すために作られた鉄道(国鉄士幌線)の、代表であるタウシュベツ橋を知ってもらうことで、自然に生かされてきた人々の暮らし、戦争の歴史、そして自然のたくましい回復力などが学べ

る格好の地域資源だと気づかされました。いまではタウシュベツ橋を見るツアーは、地域理解と自然の大切さを伝えるエコツアーと自負しています。そのようにお聞きしています。つまり、「地域愛」からもたらされた地元民の行動から、すべてが成り立っているところなんです。

まいりました!中之島周辺では「常設的なガイドツアー」を実施する仕組みは、まだありませんが、ないならないで、私たちの団体でも考えてみたいと思います。

そうですね、大阪の地域愛が見て取れるようなガイドツアーが中之島にあったら、とても楽しいでしょうね。

タウシュベツ橋に学び、そうしてみたいと思います。どうもありがとうございました。



水晶橋(大阪公式観光情報より引用) 堂島可動堰、旧中の町並みと旧日本の可動堰の橋

浪花百景歳時記

大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員

波瀬山祥子

中之島のシンボルといえは……

第六景 鯉の橋夜の景 国員画

鯉の橋は、人通りの少ない寂しい場所とされる鯉の松、奇怪な神や垂れ下がった枝は、夜半に通ると妖怪にも見えたりする。今は美術館や大阪大学の芸術センターで賑やかなこの界隈、どんな街へと変化していきます。

道行ナビゲーター 大阪大学名誉教授 橋爪節也



静まりかえった深夜の中之島。鯉屋敷の壁がつづき、提灯を持つ男が松の下で振り返って、舟入橋の上の満月を見あげています。月明かりで、松の枝葉もシルエットとなり、前を流れる堂島川に影が映り込みます。「おつ、これが名高い鯉の松か……」左側が画面から切れていますが、根元だけで大人一人分はある巨木です。幹としては、全体を黒の色調で整え、屋敷は透視遠近法でパースをきかせて、右上と左下の区画された部分には鮮やかな赤と黄色の色面を、川面には水色から青への爽やかなグラデーションを施して、大胆でメリハリある画面に仕上げています。

「鯉の松」があったのは、大阪帝國大学医学部跡地、現在の大阪大学中之島センターのあたりで、当時は広島藩、そして西隣には久留米藩の鯉屋敷がありました。戦国時代に福島正則が植えたとき、四方に枝を垂らす姿がまるで鯉のよう、この名がついたそうです。「浪花の断片」(安政二年刊)には「ゆうべあしたひと月の夕、雪の朝には、一しほながめの眺望なれば、雅俗きそひて、是を賞す」と四季折々に美しい姿を見せるシンボリックな木として愛されたことが記されます。「櫻津名所図会大成」(安政二頃成立)や初代長谷川貞信(一八九〇〜一八七九)の「浪花百景」には松の全体像が描写されており、荘厳な姿を絶ぶことができます。これらの図と比較したとき、国員は松の一部のみを切り取ることで、巨大さを表すことに成功したといえるでしょう。松は明治十年代に枯れてしまいましたが、二〇〇四年に、大阪教育大学附属天王寺小学校の同窓会により、対岸の堂島川右岸に二代目の鯉の松が植えられました。さて、この付近は、二〇二一年に大阪中之島美術館が開館、今年四月には大阪大学中之島センターがリニューアルオープンして、音楽や演劇のできるスタジオや展示室も設けられ、芸術拠点として動き出そうとしています。これらの動きをふまえ、今年九月九日(土)にシンポジウム「大阪的って何? 水辺から考えるアート・おおさか・大阪暮らし」(於中之島会館・参加無料)を開催予定で、浪花百景も交えながら、過去・現在・未来の大阪の美術「感」、コミュニティのあり方について考えます。みなさまのご参加をお待ちしています。

夏になると夏休みの宿題を思い出します。しかし調べてみると、昨今の小学校では夏休みの宿題をなくしているところもあるそうです。代わりに自分で目標を決め、取り組むよう呼びかけるとか。確かに、自分で決めた自由研究や読書感想文などは、楽しかった記憶があります。大人になると興味のあることを掘り下げる暇もなくなる時がありますが、そんなときこそ自分の好きを再確認するために、自由研究などをすると面白いかもしれません。

編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究会
編集管理：一般財団法人大阪市コミュニティ協会
発行：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行
北区民センター 〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
☎ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp
大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
☎ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp

キタのまちのニュースレター



北区民センターと大淀コミュニティセンターの主催事業「落語と絵本のアニメーション」について語り合う、国際日本文化研究センター 所長・井上章一さんと、上方落語協会 会長・笑福亭に對さん。

大阪的って何？ 水辺から考える アート・おおさか・大阪暮らし

北区民センター、大淀コミュニティセンターでは日々の会館運営とともに、地域コミュニティが潤いになるようにと願い、地域を学びの場に見立てた様々な試みを企画し開催しています。

それらは、上方落語から着想を得て「絵を描く」イベント、江戸期・幕末の色彩豊かな名所の錦絵「浪花百景」を大判に引き伸ばしたタペストリー展、フラを学ぶ人たちが互いを高めあうための「マナビバ・フラ・カンファレンス」、さらに会館運営の広報紙として、この「キタのまちのニュースレター」などがあります。

このような試みの数々に賛同し、常日頃から協力していただいているのが、大阪大学総合学術博物館の先生方で、これら数多くの試みに参加し「監修」をお願いしています。

先ごろ、その先生方と「大阪的って何？」と題し、一風変わったシンポジウムを「ともに主催」というカタチで企画・開催しました。しかも、その基調講演には日本文化の国立研究機関として著名な、国際日本文化研究センター所長 井上章一さんを（京都から）お招きし、その著書「大阪的（幻冬舎新書）」から、導き出した「大阪的って何？」をシンポジウム・テーマにさせていただきました。会場には約 200 名の一般参加者があり、ともに「大阪のこと」を考えました。

そこでは、私たちの（前出）企画事業が「研究発表」として取り上げられ、先生方と参加者が一つになり、多くのことを語り合いました。



基調講演：大阪的 ― 書評編 / 国際日本文化研究センター 所長 井上章一さん



研究発表：浪花百景 ― 「幕末の水辺に思い込む」 / 大阪大学総合学術博物館 研究支援委員 渡辺山祥子さん、大阪大学 名誉教授 横井節也さん

一箇所りのシンポジウムでは、その方向性をとりまとめ導き出すことができませんでしたが、井上章一先生と、このニュースレターで毎回「浪花百景歳時記」をプロデュースしていただいている、大阪大学 名誉教授 横井節也先生らは、異口同音に次のようなことをおっしゃいました。

「色香を有するごく普通にあった『大阪的』が消去されてゆくのは、たかだかこの半世紀の事象である」と。これに併存するように、こんな提言もありました。知り合い、語り合い、表現・研究し合う「コミュニティを築くような研究や出会いの場」が必要ではないのか、と。

このシンポジウムは先ごろ改修整備が整った北区中之島の「大阪大学中之島センター」近傍が会場でした。そんなこともあり、これら提言が、私たち北区民センター、大淀コミュニティセンターの「地域を学びの場に見立てた様々な試みを企画し開催」することへの激励のようにも感じられ、具体的なアドバイスもいただくことができました。

今後の企画にも活かしたいと考えています。（写真は当日のシンポジウム風景）

■バックナンバーの確認「キタのまちのニュースレター ちょっとだけプラス」にアクセス！

グランドピアノを無料で弾ける 体験会を開催いたします！

11月と12月に大淀コミュニティセンターで「大人のピアノ教室体験会」が開催されます。講師には大阪音楽大学出身の方をお招きし、マンツーマンでレッスンを体験できます。もちろん初心者から経験者まで参加いただける内容になっております。しかし、そうは言っても「何も知らなくて大丈夫か」「今からだ遅いんじゃないか」と考える方がいらっしゃると思います。そこで今回は経験者の目線から、初心者の方へ向けてピアノの魅力をお伝えしたいと思います。

まず筆者のピアノ歴についてですが、3歳から10年ほど教室に通っていました。きっかけは母が家で弾いているのを見て「自分も弾きたい！」と思ったからです。ただし、練習はサボリ気味で、何か大きな成果を残すほどではありませんでした。ですが、レッスンを辞めてからも好きな曲を弾いたりして、今でも大好きです。

そんな筆者が初心者の方にお伝えしたいことは「あまり緊張せずとも大丈夫」です。特にピアノは「小さい頃から習っていないと上手くなれない」など敷居が高いイメージを持たれがちですが、それはプロを目指す場合です。むしろ「はじめは子供でも弾ける」と思って良いと思います。もちろん初めはゆっくりと片手ずつかもしれませんが、筆者からするとどんな形でも「一曲を演奏する」という楽しみは何にも代え難い体験でした。なので今でも思い出しては好きな曲を練習したりします。ですが、やはり何事も基本が大事です。経験者だからといってblankがあると分からないことや思い出せないこともあり、「もう一度習い直したいな」と思うことがあります。そんな時に講師に頼れるというのは魅力的ではないでしょうか。

涼しくなってお出かけも気持ちいい季節。少し足を伸ばして芸術の秋を初めてみてはいかがでしょうか。

大人のピアノ教室 無料体験会

11月29日(水)・12月6日(水) 10時～

■持ち物：筆記用具、弾きたい曲の本・楽譜などがあればご持参ください

■ピアノ講師：岩根 美智代

■申込・問い合わせ：大淀コミュニティセンター

06-6372-0213

※応募者多数の場合、締め切ります。

まちなか子育て

建築家・ツキイチ屋台女将 岸上 純子

私の息子は11歳、小学5年生です。5歳の時に今の場所に引っ越してきたのですが、その息子が先日、あるインタビューで「中津ってどんなところ？」と聞かれ、「なんか変！いろんな大人がいっぱいいる」って答え、私もインタビューも爆笑。どうやらまんまと中津の子になってるなど感じた出来事でした。

うちの斜め向かいには、今どき珍しい「駄菓子屋さん」があります。その駄菓子屋さんで、息子は簡単な「足し算」を学びました。「はじめてのおつかい」もそこでした。そこでは自身のおばあちゃんより年上のおばあちゃんに、礼儀も教わりました。

親(私たちのことですが)、家にいなくて低学年の時には上がらせてもらって留守番させてもらって宿題まで見てもらうこともありました。近所のコンビニには友達のおばあちゃんが働いています。公園で遊んでいて買い食いしたらすぐに私に伝わります。

「手はちゃんと洗って食べや〜」って言っただけで、と教えてくれます。近所の飲み屋にはゲームの話で盛り上げられる金髪の店長がいます。息子とは20歳以上離れていますが、彼女は息子にとって「友達」だそうです。他の飲み屋では、酔っぱらった友達のお母さんによく会います。公園で野球をしていたら、いつの間にか一緒に遊んでくれるロングヘアーに髭の大人がいます。

その他にも中津には昼夜を分かたず、いろんな大人が行き来しています。私は子供のころ大阪の郊外に住んでいたのですが、昼間のまちはお年寄りか女性しかいませんでした。そして男性のほとんどはスーツを着て、朝まちから出勤していく人たちがばかりでしたし、接する大人は両親と同じような属性の大人ばかりでした。その環境と、まちなか「中津」は全く違います。

そこに住んでいる人もいれば働きに来ている人もいる、サラリーマンもいれば、髪型も服装も自由な仕事をしている大人もたくさんいる。子どもはいろんな大人と接して、もみくちゃにされ、成長していく。それが何れ、言と出るか凶と出るかは今の私にはわかりません。

でも、私は今の子育て環境がとて素晴らしいと思っています。いろんな大人がいる！だから世の中は面白い！そう思ってくれば万々歳なのです。



キタ歩き日本旅



青森県
の巻

「大阪駅前ビル」には、47都道府県のうち約半数にもなる日本全国の「道府県事務所」がオフィスを構えています。少し大げさに表現すると『日本が大阪駅前ビルに動ぜろい!』の風情です。SNS万歳の時代ですが、全国各地の旅や物産の様子「人肌感覚」で知ることができます。この連載は、旅する感覚で北区の大阪駅前ビルを訪ね教えていただいた情報です。大阪駅前ビルの歴史も魅力的!「わが町の旅」としていかがでしょうか。



「弘前市りんご公園」。りんごの花は5月に咲き始め「弘前りんご花まつり」も開催される。(出典:青森観光情報サイト・フォトギャラリー)

味覚の秋!その代表格のひとつ「りんご」について知りたいと、青森・秋田・岩手の「北東北三県大阪合同事務所」の青森県大阪情報センターを訪ね、同センター・荒井さんにお聞きしました。

青森県は国産りんごの生産量の6割以上を生産する、日本一のりんご生産県です。中でも弘前市は県内トップの生産量を誇り、「令和3年市町村別農産物産出額」の果実部門でも全国第1位という日本一のりんご産地なんです。

あらゆる果実の中で「日本一」とは知りませんでした。日本一といえば、江戸期・物資物流の日本一の集積地は大阪。なかでも「全国総産の蔵屋敷」があった中之島周辺は、モノと情報の総合センターのような「場」で、弘前藩(江戸期の全時代、

藩主が津輕氏であったことから津輕藩ともいわれる)の「大蔵蔵屋敷」もあったはずで。

私たちが現在食べている西洋りんごは、明治4(1871)年に日本に導入され、青森県へは明治8年の春に苗木が届きました。それが青森りんごの始まりです。江戸期に「りんご」はなかったの、少し時代がさかのぼりますが、とても興味深いお話です。どのあたりにあったのでしょうか?

(調べてみると)その蔵屋敷があったのは、日本三大祭りの一つ「天神祭り」の神事が執り行われる「堂島川」幹流橋の「たもと」で、中之島のすぐ北側、現在の天満警察署がその位置です。堂島川の「浜付き」だったとも記録されています。

それは興味深いですね。堂島と

いえば、ドージマ地下センターには青森県と岩手県のアナテナショップ「青森・岩手えもんショップ」があり、青森の名産・逸品が並んでいます。もちろん「新鮮なりんご」は人気です。お菓子やジュース等の加工品もたくさん販売しています。

そうですか「堂島のドージマ地下センター」ですか!...日本一のりんごの話から大阪人も忘れていた歴史・文化の国産。美味かぐわしい「りんご」の風情。昔と今、場所と場所が「ひとつの物語」になった。いいお話をいただきました。

大阪の歴史文化の「ものがたり」と、ドージマ地下センターの「青森・岩手えもんショップ」が一つながりになりました。ぜひお立ち寄りください。

北東北三県大阪合同事務所・青森県大阪情報センター
北区梅田1-3-1-500 大阪駅前第1ビル9階 ☎06-6341-7900(開館 平日9時~17時/土日祝・年末年始は休み)

浪花百景歳時記

大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員

波瀬山祥子

あんなところに狼がジャンプしてきて
あそこが北風亭でずがな。

第五十八景「北風亭」 国貞画

「浪花百景」には西国屋や浮瀬などの料亭が登場しますが、キタを代表するのが北風亭。寂れた店の造りに看板の輝き、今ならインパクトあふれるデザインだ。

進行ナビゲーター 大阪大学名誉教授 橋爪節也



北風亭は、大阪キタの繁華街として賑わう北新地にあった高級料亭です。かつて堂島と曾根崎の間には、堂島川から分岐した堀川（曾根崎川）が流れていました。大阪駅前第一ビルの南内角の橋樑交差点は、いまは矢おれを堀川に架かっていた橋の名にちなみます。川には他にも幾度小橋・観音・緑橋・梅田橋などの橋が架かっていました。近松門左衛門「心中天の網島」の「名残の橋づくし」でこの名も多々出ています。

の新社は栄えました。さらに享保十五年（一七三〇）、堂島が幕府公認の市場となると、曾根崎新地が発展し、俗に「北の新地」と呼ばれるようになりました。『摂津名所図会大成』（安政二年（一八五〇）頃成立）には、「治茶屋野をつらね紅顔雪肌」ともがらみききして橋上には舞妓緑衣の音うるわしく四時ともに賑わし、所謂北方の繁花なり」とあり、本図はその享保よりを伝えています。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・
都市コミュニティ研究会
■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会
■発行：月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター 〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
☎ kitakumin-center@abellia.ocn.ne.jp
大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市東淀川区3-8-2
☎ oyodo-comini@abellia.ocn.ne.jp

右平前の建物は「船場の茶屋」。左平前は「草亭」という客間。石造の軒が置かれる所は「廊のほし」、暖簾は「名々我」という名前。頭にかんざしを指した遊女らしき女性がお得意様を接待しています。その下には「白糸瀧」があり、また、ここには描かれていませんが、風車から流れ落ちる手水場や白度石、さらには鳥居などもあったようです。

高度成長期に普及した新しい言葉「コミュニティ」は、共同体や地域社会を表す「広がりのある言葉」です。ここ20年、SNS社会が普及したことで仕事の機会・趣味嗜好の出会いなども国際的な広がりを遂げ、併せてコミュニティの意味合いが進化しています。北区では超高層マンションが増加したことでもコミュニティ意識の進化が顕著です。今号1ページでは、そのような社会背景をベースにした、私たちの取り組みをご紹介させていただきました。

編集後記

KITA NO MACHI NO NEWS LETTER

No.11 | 2024
冬-春号



今回の華道で設置された島台

会館インタビュー

「嵯峨御流 いけばな教室」

講師：溝渕 佐知南

平安初葉、嵯峨天皇が菊を花瓶に挿したことが発祥と言われている『嵯峨御流』。全国的に有名な華道の流派で、北区の人であれば阪急うめだ本店の前にあるコンコースウィンドーで、お正月などに見かけたことがあるのではないのでしょうか。そんな『嵯峨御流』のいけばな教室を大淀コミュニティセンターで開催されている溝渕 佐知南さんにお話を伺いました。

インタビュー：溝渕さんが華道を始められたきっかけは何でしょうか

溝渕さん：「きっかけは高校生のとき、近くに華道の教室ができて、そこに通ってみようかなと思ったのが始まりですね」

イ：それからずっと続けられて、今では講師になられたんですね。

溝渕：「一度やり始めたら、とことんやらないと気がすまないんです。だから指導も突き詰めようと、生徒を講師にできるように嵯峨御流の指導の資格も取りました」

イ：すごく真摯に向き合っていらっしゃるんですね。普段の教室ではどのように指導されていますか。

溝渕：「まず私が見本を生けて、同じ材料で皆さんに生けてもらいます。初めは一本ずつ教えていたんですけど、中には30年以上通われている人もいますので、見た後はみんなそれぞれやっていますね」

実は溝渕さんは、過去に大淀コミュニティセンターの講習会で講師を務めていた。そのときの生徒さんが、現在も通われているという。

イ：こちらの教室では3年ごとに北区のセンターで花展をされていたそうですね。コロナの影響が収まり、ようやく今年再開でき、会場が変わっての開催でしたがいかがでしたでしょうか。

溝渕：「今年は会場が変わって天井が高くなったので、島台に挑戦しました。それにふさわしい花器を探すのに、生徒の方にもたくさんお手伝いしていただきましたし、久しぶりなのもあって大変でした。でもたくさんの人に来てもらえて、盛況だったと思います」

イ：私も拝見させていただきました。例年の「文化のつどい」でも展示をされておりますが、その時とは展示方法が違い勉強になりました。どの作品も美しかったです。展示の生け花で気をつけていることはありますか。

溝渕：「私はよく権古のときに『お花と話して生けて』と言っています。普段と違い何もないところから生けるわけですが、『この枝はここ』と1本の枝に惚れ込んでしまうと、なかなかお花と合わない時に焦ってしまいます。そういう時に『あなたがそう思っている、そのお花は違う枝がいいかもしれない』と花にあうものを考えられた材料から選ぶよう促します。その方がしっくりきます」

イ：なるほど、自分の理想だけにこだわらずでもいけないということですね。自分を見つめ直すいい機会になりそうです。では最後に読者の方へ一言お願いします

溝渕：「今はいろんな人が問題を抱えています。そういうことを忘れる時間が必要と思いますが、華道というのは一生懸命お花と向き合うので、世帯を忘れるといいますが、心が安らぎます。花と向かい合って喋ってもらえるような感じでやっていただけると嬉しいなと思います。」

イ：ありがとうございました。



大小さまざまな作品が並んでいる



こだわりの花器も目立ちます

「嵯峨御流 いけばな教室」

■場所：大淀コミュニティセンター

■曜日・時間：月2回 火曜日 18時30分から
月3回 水曜日 10時15分から

※その他にも北区民センターで知るサークルも開講中

■バックナンバーの確認「キタのまちのニュースレター ちょっとだけプラス」で検索！

落語の世界を広げる 「はなし画」

『落語と絵本のアンヌアール』では披露された三題噺をもとに、さまざまな『はなし画』が生まれます。今回は130枚以上の絵が集まりました。そこで『はなし画』の魅力の一部をご紹介します。



↑前島美穂さんの応募作。
落語の世界とは一味違うロマンスあふれる作品。



↑井上優那さんの応募作。
落語家をイメージしたという人物像とポップな絵柄がマッチしている

今回特に印象的だったのは、桂福点さんの三題噺を描いた作品。泥棒と盲目の女性による笑劇が繰り広げられるのですが、その人物像は多彩でした。中でも上図の絵を書いた前島さんは最後のお嬢さんの一言からロマンスを表現したと語っており、同じ題材のなかでも目立っていました。泥棒もどこかイケメン風で、落語が少女漫画のようになっており驚きです。

一方で下の絵は、福点さんの声色や語り口からイメージを得たそうでポップな絵柄に。泥棒の姿も着物やメガネをかけていることから、噺家をモチーフにしたんじゃないかと想像できます。作者によって注目している点が異なり、落語そのものの見方も変わってくるのが興味深いですね。

北区に中之島美術館がオープンし、ご近所でアートに触れる機会も増えました。三題噺から着想し「はなし画」を描く「このイベント」は、コミュニティ発の参加型アートイベントです。詳しくは「落語と絵本のアンヌアール」HPを見てみてください。スタッフ一同「はなし画」が絵本に育つことを願っています。

ボートの灯り

キタのまちのニュースレター 編集室

大川(旧・淀川)から中之島の東端。剣先では北に堂島川、南に土佐堀川(これに分岐して東横堀川)を臨む。西端、端建蔵橋の先っちょで、大阪湾に注ぐ安治川、南進する木津川にも出会う。これに「キタの北」の淀川を加えると、北区の川で「都市・大阪」を知ることができる。また、江戸期・中之島とその周辺は、全国諸藩100余もの「蔵屋敷が軒を並べた」……これに注目すれば、日本全土との「ふるさと交流便」の起源?にも出会える。

インバウンド人気が増え、繁華な場所の賑わいは万国共有に戻ったが、ふるさと「キタ」の見慣れた風景には「変化とそのまま」が隣り合っている。

写真は、最近できた歩道橋から東を眺め「土佐堀川の曲がり」をボチっている。昭和の終わり頃、この付近に清き出す「大川沿いに船庫を持つ競技用ボート」は珍しくなかった。ある時、その細長いボート同士がここで乾坤一擲、競り合う姿を見かけた。それは夕暮れ時で、船先と舟尻の小さな灯りが、先へ先へと突っつき合う姿が可笑しく美しかった。それを肥後橋の上から眺めていた。

都心生活者は戻ったが、このビジネス街付近でボートを見かけることはなくなった。ところが、ビジネス一色では「コミュニティの磁力」に欠け、人を引き寄せることは難しい時代になっている。見慣れた風景にコミュニティの磁力を尋ね、訪ね歩いてみることにする。





キタ歩き日本旅



山形県
の巻

「大阪駅前ビル」には、47都道府県のうち約半数にもなる日本全国の「道府県事務所」がオフィスを構えています。少し大げさに表現すると『日本が大阪駅前ビルに勢ぞろい!』の風情です。SNS万歳の時代ですが、全国各地の旅や物産の様子を「人肌感覚」で知ることができます。この連載は、旅する感覚で北区の大阪駅前ビルを訪ね教えていただいた情報です。大阪駅前ビルの歴史も魅力的!「わが町の旅」としていかがでしょうか。



「上杉雪灯籠まつり」2/10(土)～11(日)に開催される。写真出典:山形県HP

紅白それぞれが美しい山形へ

今日は山形県大館事務所に唐工観光ご担当の須藤さんを訪ねました。

上方になじみ深い山形県の名産に紅花があります。山形に紅花が入ってきたのは室町末期と考えられています。江戸期には紅を濃縮し「紅糖」に加工して、その多くが船で上方に運ばれました。着物の染色や化粧品に用いた貴重品でとても高価なものです。気候風土に恵まれていたことから、紅花の栽培は最上川流域一円で盛んでした。今も紅花栽培は盛んで、紅花が咲き誇る7月には山形県各地で紅花にちなんだ様々なイベントが開催されています。

「初夏の紅花」見事なんじゃないか、冬はやっぱり雪の雫しでしょうか?

雪に関連するイベントはさらに盛んです。数えると数限りなくあるのですが……「蔵王雪まつり」「上杉雪灯籠まつり」「月山志津温泉 雪灯籠の灯り」「ひがしね雪まつり」「尾花沢雪まつり」「ながい雪灯り回廊まつり」「まほろば冬

咲きぼたんまつり」「中津川雪まつり」「新庄雪まつり」「おおくら雪ものがたり」「鶴岡雪まつり」……まだまだありますが……

すいません。紙幅に限りがあるので、ここからは「山形の雪まつり」で検索し、すべてで拝見します。ところで先ほどの「舟運」ですが、やはり北前船と関係が深いのでしょうか?

そのとおりです。山形には最上川の舟運で発展した歴史があり、上流に整備されたそれぞれの船着き場から、西回り航路の拠点「活田の湯」に物資が集まり、上方を目指しました。

西回りの航路を確立した河村瑞賢は上方、特に大阪でもよく知られる歴史上の人物です。当時、まちのどまん中に流れ込み、たびたび氾濫する河川の流れを、安治川の開削で海へと導いた河川工事の達人でした。往時、中之島両岸に立ち並ぶ全国諸藩100余の藩邸数群も「瑞賢の仕事」なくして無く、そ

の意味で「近代大阪の原型」をつくった人です。

山形と大阪は、河村瑞賢という歴史上の人物でつながっていたんですね。

紅白それぞれが美しい山形へ! 旅に出かけたいくなりました。



「咲かせて楽しんで紅にして」紅の花は美しい!



最上紅花の「紅鮎」で飾る内渡町の人気景観。写真出典:「いづれも、山形県立文化観光サイト」

山形県大館事務所

北区地図1-3-1-800 大館駅前第1ビル8階 ☎06-6341-6816(開館 平日9時～17時15分/土日祝・年末年始は休み)

浪花百景歳時記

大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員

波瀬山祥子

勝負服は「梅」パッチで決まり！

第七十一景

「大江ばしより鍋しま風景」 岡員画

天下の会所のシンボル、堂島の米市場に向かって大江橋を渡る仲買人、現代なら淡路橋から出勤するルートですが、当時の橋は真ん中が高く、この絵の仲買人も橋をのぼり美味なで煮売を堪能、相場も上昇中。

進行ナビゲーター 大阪大学名誉教授 橋爪節也



大江橋を渡る男の腰から足だけをズームした、歌川広重ばりの大胆な構図が目立ちます。欄干越しに堂島川を距て、むこうは鍋島藩の蔵屋敷。現在の大阪高等裁判所の辺りです。「相場附」と書かれた板面を腰に下げ、白地に水色の梅紋のパッチ（股引）が洒落ています。板面の後ろに見える黄色いのは、筆と墨が収まる携帯用筆記具の矢立です。この出立ち……、堂島米市に向かう米仲買人に間違いないでしょう。空は朝焼け色に染まり一日の始まりを知らせて

ます。勝つか負けるか、今日の取引やいかに。

大江橋は、元禄年間に架けられた堂島五橋の一つで、浪花三大橋（大橋・天神橋・難波橋）に次ぐ大きさです。奥に見える白壁の建物が鍋島藩の蔵屋敷で諸藩の蔵屋敷でも最大級の敷面積を誇り、東側に米蔵、西側には、伊万里や有田など佐賀の名産を収める陶器蔵が並びました。荷物を運んできた船は、右下に描かれる舟入橋をくぐって屋敷内に入ることが可能となっています。蔵屋敷の前は「鍋島の浜」とよばれ、人々の憩いの場となっていました。大坂生まれの漢詩人・柳山陽（二七八ー一八三三）が実母と付近で天神祭の船渡御を見物したように、仲買人の梅紋のパッチも天神さんを意識するのでしょうか。隆差を指す武士、杖をつく老人、荷物棒を担ぐ人などが小さいながらもシルエット的確に表現され、美しげな会話が聞こえてきそうです。さらに画面左には北の新地へと流れ込む観川の入口が見えます。米市で勝負をかける商人と、平穏な市井の風景が対比的な一図です。

現在の大江橋は御堂筋の整備に伴って、昭和一〇年（一九三五）に淀屋橋とともに架け替えられました。橋のデザインは一般公募されて、武田五一の設計で鉄骨鉄筋コンクリート製のアーチ橋になりました。近代の名橋として中之島の景観に華を添え、二〇〇八年に国の重要文化財に指定されます。梅が美しいこの季節、梅柄のアイテムを着けて中之島散歩を楽しみたいのがいいでしょう。

編集後記

新年から筆者は体調を崩してしまいました。職場の近くにいる病院があるのかも分からず、調べられないぐらいにしんどい。そんな時、その地域に住んでいるアルバイトの方が近くの病院を紹介してくださり、無事に行くことができました。こうした時に地域の人のありがたみを身にしみて感じました。いろいろなことが起こりますが、身近な人の声の掛け合いで解決することもあるかもしれません。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室

■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会

■発行 月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター 〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
☒ kitakumin-center@abellia.ocn.ne.jp

大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
☒ oyodo-comini@abellia.ocn.ne.jp

1. 事業名	扇町マナビバ マナビバ・フラ・カンファレンス<環境循環型コミュニティを表現し楽しむ>
2. 事業内容	フラの学びを高めあうことにより地域コミュニティがより豊かになることを目的とした、“フラでつながるコミュニティイベント”を3月12日に北区民センターで実施した。 イベントは二部制で実施し、第一部ではハワイアンスタイルのオープニングに始まり、子どもを中心としたフラのステージ。第二部ではテーマに沿ったハワイアンソングの曲を紹介しながら、生バンドの演奏でのフラダンス。フラを見たことがない方から踊れる方まで、理解を深めることができるステージを企画した。
3. 実施日 実施場所	○令和6年3月24日（日） 北区民センター ホール
4. 来場人数	延べ約300名
5. 出演	□ハーラウ オ リリノエ □ハラウ オ カホークー オーリノリノ □ハラウ フラ オ カモク オピオ オカラニ □ハラウ フラ オ メハナ
6. 次年度の 展望	今年度は前年度よりも来場人数が多く、さらににぎやかなものとなった。たくさんの来場者がある中で、次年度は参加者がもっとフラの世界に入り込めるよう「体験・体感」できる仕組みをイベントに組み込みたいと考えている。また、イベントが地域の新しいつながりの場となるよう、次年度はチラシ・ポスターを活用した広報面においてもさらに力を入れていくことを検討している。

添付資料⑨ 当日写真

<マナビバ・フラ・カンファレンス（3月24日@北区民センター・ホール）>



1. 事業名	浪花百景展示・講演会＜大公園の次世代を考える「扇町マナビバ」フォーラム事業＞
2. 事業内容	大阪の昔の風景を描いた「浪花百景」40点(景)を大判タペストリーにし、今と昔の大阪を図版で実感。 橋爪節也大阪大学院文学研究科教授と大阪大学総合学術博物館の波瀬山祥子さんによるワークショップも開催した。
3. 実施日 実施場所	○令和5年11月3日(金・祝)～5日(日) 北区民センター第1・2会議室
4. 来場人数	延べ約50名
5. 協力	・大阪大学教授 橋爪節也氏 ・大阪大学総合学術博物館 波瀬山祥子氏
6. 次年度の展望	江戸後期の大阪を描いた図版集「浪花百景」の原画(100枚の風景錦絵)を、高精度で大判のタペストリーに施し毎年度ごとに20点(景)程度追加して「企画展示」を実施した。幕末の大坂の町の様子や庶民の姿が生き生きと描かれ、後年の開発と戦災で姿を消した川や橋も多数見られる図版を、来年度は10点(景)を追加。大阪の今昔を知るきっかけの一環とし江戸時代の「古き良き大坂」にタイムスリップしてもらいながら、商都浪花の賑わいとそこで暮らす市井の人々の営みを一瞬の「景」でとらえた『浪花百景』の世界を読み解き、見る人が『今のまちに求められる視点』を検証もらえる糧にしよう。 また、今年度は企画展示以外にも大淀コミュニティセンターの自主事業である「文化のつどい」での展示も行い、イベントに足を運んだ方が気軽にタペストリーを見られるようにした。次年度は来場者が「今」と「昔」を見比べながらタペストリーを閲覧できるような展示方法の再検討や、施設に足を運んだより多くの方に企画に参加して頂けるように展示期間を拡充するなど、企画内容を精査していく。

添付資料⑩ 当日写真

＜浪花百景展示・ワークショップ＞





「改正増補国宝大坂全国」

発見！うちのまち

浪花百景

タペストリー展

無料

令和5年 11月

3日 午後1時30分～午後5時

4日 午前10時～午後5時

5日 午前10時～午後5時



「天満市場」



「産湯味原池」

■道中タペストリー・ワークショップ

4日 ①午後1時～
大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員 **波瀬山 祥子 氏**

②午後2時30分～
「キタのまちニュースレター」で人気の「浪花百景鑑賞記」道中ナビゲーター
大阪大学 **橋爪 節也 氏**
名誉教授

■道中タペストリー・ミニ解説

5日 ③午前10時～
大阪大学総合学術博物館
副館長 **船越 幹央 氏**

幕末の大坂の名所を描いた「浪花百景」を巨大なタペストリーに精密拡大！大きくなることでみえるものもあるかも!? 「むかし」を旅することで、「いま」と「むかし」をみつめてみませんか？



①②道中タペストリー・ワークショップ
③道中タペストリー・ミニ解説
参加ご希望の方は左のQRコードからWEBにアクセスしお申込みください。
観覧のみ場合はお申込みが不要です。
[URL] <https://teket.jp/4078/26314>

北区民センター 第1・2会議室

大阪市北区扇町2-1-27

■Osaka Metro 堺筋線
「扇町」駅 2号-B出口北へ3分

■JR環状線
「天満」駅 西へ3分 北区役所隣

■主催 北区民センター/大淀コミュニティセンター
(一財)大阪市コミュニティ協会/岡・都市コミュニティ研究室

■協力 大阪大学総合学術博物館

□お問い合わせ (一財)大阪市コミュニティ協会
担当: 星枝 TEL 06-6125-3311

感想
浮世絵の拡大版のタペストリーが見られてよかった。大きいから私のように年取っていても見やすかった。
絵の方向も説明されているとありがたい
古い物が色あざやかに残っている良き時代が知れてとても良かったです
非常に興味深く拝見させて頂きました
ステッカーがとても良い。全種類集めたい
描かれた場所の地図があり、よりイメージがわかりました
少し見にくい。大阪全国でポイントを落としてみたい。各国にあるのも残して
これからも継続して展示して欲しいです
定期的に続けてください。
北区民センターには初めて来ました。玄關にバテ咲いてましたね
写真があれば現地の
今の大阪とのコラボレーションが有ったらもっと良かった
なつかしい大阪のものと昔の風景を見れてよかった
まさかのワークショップ。今度から絵画を見る際の参考になりそう。
大変勉強になりました。面白いセミナーでした。
先生の解説がとても楽しく聞いていて勉強になった。大きな画面が見やすくて細分まで見ることができておもしろかった
おもしろい説明ありがとうございました
早く百景がそろってそのあと浪花百景之内もお願いします
普段目にしている絵画も見違えている部分が多いです。参考になりました
わかりやすく説明していただきありがとうございました
残る50作品のタペストリー、完成と公開を楽しみにしています。
拡大することで新しい発見があった
先生のお話が大変面白く興味深く拝聴させて頂きました。今の風景と比較できてより一層距離感をもって見る事ができました
とても興味深い内容で勉強になりました。尼崎市在住なので大阪のイベントの予定が入手しにくいです。必ず入手できる方法がありましたら、ご教示ください。
説明がよくわかりました
今、大阪公立大学で歴史の中の大阪の講義を取っていますが、タペストリーを見る事により理解が深まりました
こんな部屋があるのを初めて知りました。
場所を特定できた地図があつてたいへん良かったです。
昔の感じがわかり良かったです
昔の大阪がわかって良かったです。色がやわらかくてステキでした。